

要 旨

本研究は、主体的に聞くことができる生徒を育成するために、自己評価と学習用語を取り上げ、聞くことに焦点を当てた話し合い活動の在り方を探ったものである。自己目標の設定とその振り返りを中心とした自己評価は、聞くことに対する意識を高め、学習に主体的に取り組む姿勢の向上につながった。学習用語は生徒に聞き取る視点を与え、自分の考えと比較して聞いたり、発言の妥当性を検討しながら聞いたりする力を高めるのに有効であった。そして、これらの手立ては聞き返すという活動の必要性を生徒に実感させ、主体的に聞く力を高めた。

〈キーワード〉 ①自己目標と振り返り ②学習用語 ③話し合い活動

1 研究の目標

主体的に聞くことができる生徒を育成するために、話し合い活動において、分析的に聞く力を高める国語科学習指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

平成20年9月に改訂された学習指導要領において、各学年の「話すこと・聞くこと」の目標冒頭に、目的や場面に応じることの大切さが述べられている。そこには「話す」「聞く」「話し合う」目的を明確に意識し、場面に応じた話し方や聞き方ができることの必要性が示されている。また改訂に伴い、この指導事項が整理された。特に「聞くこと」の指導事項が設けられたことは、大きな意味をもつ。これは、常に聞くことによって自己内対話をし、それによって言動を決定している社会生活の中においては、具体的な音声言語によって、よい聞き手を育てることに着目した指導が必要であることを示している。つまり、聞き取った内容をそのまま受け入れるのではなく、自分の考えと比較して理解したり、それを基に自分の考えを広げたりできる、主体的な聞き手の育成が求められているということである。

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕(中学校第2学年)では、話し合いの方向を捉えた司会の役割を問う設問において、本校はおおむね達成の基準を下回るという結果が見られた。つまり、話し合いがスムーズに進行するように、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり聞いたりする力が不足していることが分かる。

そこで、授業において聞くことへの意識を高めるために、その必然性を生む話し合い活動を取り入れ、その中で、自己評価を行わせ、学習用語を聞くことに生かさせる。自己評価では、生徒が聞くことに焦点を当てた自己目標の設定とその振り返りを行う。それは、聞くことへの意識を高めるとともに、学ぶ目的や聞くことの課題を明確にすると考える。また、話し合いに用いられる学習用語を「聞くこと」に生かすことは、話の妥当性を判断したり、複数の意見の関連を考えて聞いたりするなど、分析的に聞く力を高めることにつながると考える。

そこで、本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、聞くことの必然性をもった話し合い活動を設定し、その中で自己評価と聞くことに生かす学習用語を取り上げることで、分析的に聞く力を高め、主体的に聞く生徒を育てることができると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

「話すこと・聞くこと」の指導において、自己目標の設定とその振り返りを中心とした自己評価を行い、話し合いに用いられる学習用語を聞くことに生かせば、発言の妥当性を考えながら聞く力や複数の発言を検討しながら聞き、自分の考えに生かす力を身に付け、聞くことを通して、理解を深めたり、自分の考えを広げたりする力を高めることができるであろう。

4 研究方法

- (1) ディスカッションや評価、語彙に関する理論研究
- (2) 質問紙による意識調査や、到達度調査を基にした生徒の実態調査
- (3) 話し合い活動の授業実践及び考察

5 研究内容

- (1) 学習用語を活用したグループディスカッションやパネルディスカッションの指導法及び評価に関する理論研究を基に、聞くことを中心とした学習法を探る。
- (2) 質問紙による意識調査及び話し合いについての到達度調査を実施し、その結果を分析し、生徒の実態を把握する。
- (3) 所属校2年生における単元「身近な人の『物語』を探る」(3時間)と「話し合って考えよう」(3時間)を用いた授業実践を行い、仮説を検証し手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

ア 聞くことについて

中学校学習指導要領解説国語編では、「自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については学習過程を一層明確化」⁽¹⁾するという意図のもと、「聞くこと」に関する指導事項が「話すこと」とそれぞれに示された。中でも、第1学年の必要に応じて質問しながら聞き取ることや、第2学年の自分の考えと比較することでは、聞き手に能動的な姿勢を求めていることが分かる。つまり、「話すこと」と同様に、「聞くこと」も聞き手による主体的な言語活動として行われることが大切であることを示していると考えられる。野地潤家も「聞くことの学習は、単なる技術や態度の学習ではなく、認識思考と深く関わる能力の学習として、国語教師の強く認識すべき領域である」⁽²⁾と述べている。このことから、国語科の指導において、能動的に聞く力を、様々な目的や場面の中で具体的に引き上げて指導していくことが必要であると感じた。

これらのことを踏まえ、本研究では、意見を交換し合い、協同して課題を解決する場としてのグループディスカッションと、複数の意見を照らし合わせながら、自分の意見を広げる場としてのパネルディスカッションを取り上げる。これらの討論において、自己目標の設定とその振り返りを評価規準に沿って行わせるとともに、学習用語を聞くことに生かさせることで、身に付けさせたい聞く力を具体的に示した活動を展開したいと考える。

イ 分析的に聞く力について

高橋俊三は、聞き方の機能や意識、能力などの面から、34の項目にわたり聴く力を整理している。その中で、分析的に聴く力とは「事象と感想・意見との関係」「主張とそれを支える根拠との関係」「複数の発言の共通点と相違点」「定義」「主張の妥当性」「主張を支える根拠の信頼性」といった項目を指すとしている。この研究を参考に、本研究では「分析的に聞く力」を、①意見の妥当性を考えながら聞く力、②複数の発言を検討しながら聞く力と定義付けた。そこで、授業に

において、相手の話を聞き分けるためのポイントを示す学習用語を提示する。それを聞くことに生かさせることで、選択的に聞き取る、関連を考えて聞く、比較して聞くなどの聞き方に目を向けさせ、多角的な視点に立って聞く力を身に付けさせたいと考える。

ウ 主体的に聞く力について

宗我部義則は「話に耳を傾けて『聞き』始めるとき、聞き手の意識の中心は話の内容に向けられているが、やがて聞き手は、自分の考え方や感じ方、これまでに手にした情報や体験などと比べたり、自分にとっての価値を見いだしたり、さらには、必要な情報を求めたりするようになる。

(中略)『訊く』ことは実際に質問して相手に訊ねるという意味だけでなく、自分の中で『なぜそう言えるのか』『つまりこう言いたいのか』『この点はどう考えるのか』などと問いかけながら、話し手が伝えようとしている内容・意味を形作っていく聞き方でもあると言えるだろう。これが、話し手への質問になるのである。『訊く』ことはやはり聞き手の主体性・創造性が高まった状態において生まれる“聞き方”なのだ⁽³⁾と述べている。

このことから、主体的に聞く力とは、「聞き取った事柄を、自分の考えや他の情報などと比べて理解し、質問や反論など聞き返す活動を行うことで、自分の考えを広げることができる力」であると考えられる。その上で、主体的に聞くことができる生徒とは、①自分の考えやもっている情報・知識などと比べながら聞くことができる、②聞き取った内容を基に、自分の考えを見直し、新たな考えや別の視点からの考えを見いだすことができる聞き手と捉える。

エ 研究の構想

本研究では、主体的に聞くことができる生徒の育成を目指す。そのためには、学習用語を生かして話を聞き、「どんなことを話しているのか」「話していることは本当なのか」「どんな共通点があるのか」などと、聞き取った内容を整理して把握することが必要となる。分析的に聞くとは、このように、複数の意見を必要な観点に沿って聞き分けて整理することを指している。そして、主体的に聞くとは、分析的に聞いたことを自分の考えと照らし合わせ、質問や反論など聞き返す活動を行うことで、自分の考えを広げることが指す。聞き分けた内容に対し、「自分は受け止めるのか」「自分はどう考えるのか」という対自意識を働かせることが、質問や反論といった聞き返す活動の必要性を実感させ、主体的に聞く力を高めることにつながる。したがって、主体的に聞くためには、複数の意見を聞くことができる場の設定と、賛成・反対・質問・反論など、自分の考えとの関連を図る学習用語を聞くことに生かさせることが必要となる。そこで、パネルディスカッションを聞く場として設定し、学習用語を生かして聞き分けさせたり、聞き返して検討させたりすることで自分の考えを広げられる、主体的な聞き手を育成したい。

(2) 実践化への手立て

ア 自己目標の設定と振り返り

自己目標の設定とその振り返りは、学習に主体的に取り組む態度を育成すること、そして、聞くことに焦点を当てて言語活動を行わせることを目的としている。そのためには、自分が何を学び、どこまで達成しなければならないのか、自分の課題は何なのかを認識することが必要となる。つまり、聞くことにおける自己の学びを客観的に確認できる評価規準が求められているということである。そこで、本研究では、学習指導要領の「聞くこと」「話し合うこと」の内容を参考に、聞くことの評価規準表(次頁表1)を作成した。この評価規準表には、具体的にどのような聞き方を目指せば良いのかを示した評価の目安を載せている。それを、自己目標の設定やその振り返りに活用させる。また、教師はワークシートや聞くことのチェックリストの項目の作成、授業中の観察に活用し、生徒の実態把握や指導の工夫・改善に役立ていく。

表1 聞くことの評価規準表

		評価規準	評価の目安
①	1年	ア 話の全体と部分、事実と意見との関係に注意しながら聞くことができる。	・話の要点や中心点をワークシートにまとめている。 ・相手の主張や根拠を聞き取り、メモしている。
	2年	イ 話の流れをとらえ、話し手の意図を考えながら聞くことができる。	・状況や文脈の中で、話し手が伝えたいことをくみ取りながら聞き、相手の発言につないでいく発言をしている。
		ウ 主張を支える根拠の信頼性を考えながら聞くことができる。	・根拠の不明確なところに質問したり、反論したりしながら聞いている。
②	1年	エ 聞き取ったことを、自分の考えと比べて整理することができる。	・自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点をワークシートに整理している。
	2年	オ 自分の考えと比較し、検討することができる。	・自分の考えと比較し、賛成又は反対などの判断を示している。
		カ 自分の考えを補足することができる。	・自分の考えの不十分な点に気付き、それを補ったり確認したりしている。
③	1年	サ 話合いの目的や展開をとらえながら聞くことができる。	・話合いの中心となる事柄を、ワークシートに記入し確認している。 ・話題に沿って、発言の内容をメモしながら話合いを進行している。
	2年	シ 話合いの展開を予想しながら聞くことができる。	・話合いの目的を達成するために、どの意見をより深めればよいのかを判断している。
		ス 話し手の立場を考えながら聞くことができる。	・話し手の主張や根拠から、話し手の思いや考えをくみ取り、どの意見と共通するのかを整理している。
④	1年	セ 自分の考えと比べながら聞き、自分の考えをまとめることができる。	・話合いのメモや内容を参考にし、自分の主張や根拠が具体的な内容かどうかを検討している。
	2年	ソ 互いの発言の関連を考えながら聞くことができる。	・互いの発言の共通点と相違点を区別して聞き、要点を整理している。
		タ 自分の考えを別の立場から考えることができる。	・他の立場から自分の考えを見直し、主張や根拠を補足したり、論の筋道を立てなおしたりしている。

イ 学習用語の整理

学習用語とは、「学習指導要領に示す国語の能力を、言語活動を通して確実に子供たちに身に付けるために、子供たちにとっての課題解決過程において必要となる重要な用語」⁽⁴⁾のことを指す。学習用語は、複数の教材で継続して指導できるとともに、他教科の学習指導にも生かすことができるものである。また、学習用語を提示することによって、学習のポイントやねらいを明らかにすることができる。

そこで本研究では、これらの特徴をもつ学習用語を、他者の意見や質問、反論を聞くときに役立てさせたい。学習用語を生かして他者の発言を聞くことで、自分が聞きたいことを選択して聞き取ったり、自分の考えと関連付けながら理解したりすることができる。話合い

に必要な学習用語は、光村図書と東京書籍の1・2年の教科書の中の言葉を拾い出すことによって捉えることとした。それぞれの教科書から、「聞くこと」「話し合うこと」を学習する単元を取り上げ、どのような言葉がどのくらいの頻度で使用されているのかを確認した。頻度の高い語群は、話合いの学習に必要な言葉と捉えることができるため、学習用語として適切な言葉と考えられる(表2)。

(3) 検証授業について

ア 検証の視点と手立て

(ア) 【検証の視点I】自己評価は、聞くことへの意識を高めるのに有効であったか

自己目標の設定とその振り返りを中心とした自己評価は、聞くことの学習を支える意欲や態度の向上を図るものであり、生徒が、聞くことに焦点を当てて学習を進めるための支えとなるものである。そこで、自分が何を学び、どこまで達成しなければならないのかを客観的に確認できる評価規準表を提示し、それを基にした自己目標の設定や振り返りに取り組ませた。また、

表2 学習用語の一覧表

	用語	用語の意味	具体的な使い方
役割	1 司会	話合いの進行を担う	
	2 計時	話合いが時間内に終わるように、話合いの時間を計る	
	3 発表	話合いで決まったことやまとまったことを確認し、伝える	
	4 記録	話合いで出た意見やまとまったことなどを記録する	
話合いの進行に関わる言葉	5 話題	話の題材	・今日は○○について話合います。 ・今の話題は○○です。
	6 意見	思いや考え	・私は○○と 思います 。 ・私の 意見 は○○です。
	7 根拠	思いや考えのよりどころ(拠となること)	・それは、○○と 思うから です。 ・○○と 思うの を、その意見に反対です。
	8 理由	その結果が生じたわけ	・なぜなら、○○だからです。
	9 確認	そうなのか、確かめること	・それは、○○ ということですか 。
	10 質問	疑問に思ふ点や理由を尋ねること	・○○とは、 どういうことですか 。 ・それは なぜ ですか。
	11 補足	不十分なところを補うこと	・ ただし 、○○という疑問は残ります。 ・ しかも 、○○という点があります。
	12 反論	相手の意見に対して言い返すこと	・○○の意見に 反論 ですが… ・○○ とも考えられる のではないですか。
	13 説明	内容や意味を、よく分かるように解き明かすこと	・○○という意見を 説明 すると… ・ 例えば 、○○ということでしょうか。
	14 関連	かかわっていること	・○○さんの意見に 関連 するのですが… ・○○ について 、他に意見はありませんか。
	15 賛成 同意	同じ考え	・私も、○○さんの意見と 同じ です。 ・○○の意見に 賛成 します。
	16 反対	逆の考え	・私は○○と 思います が… ・○○という意見とは 違 います。
	17 まとめ	ばらばらな意見が、一つの整った意見になること	・これまでの意見を まとめ ると…
	18 立場	判断する際の考え方	・私は…という 立場 で意見を言います。 ・○○の意見と 同じ で…
	19 整理する	色々な意見を、整えること	・○○さんの意見を 整理 すると… ・私の意見を 整理 すると…
	20 目的	学習の目指すところ。	・今日は…について話合います。

振り返りでは成果や課題を文章で整理させ、自分がどこまで意識して聞くことに迫れたのか、どのような聞く力を身に付けることができたのかを把握させる機会とした。

- (イ) 【検証の視点Ⅱ】学習用語は、分析的に聞く力や主体的に聞く力を高めるのに有効であったか
意見の比較や検討に聞くことから迫るため、聞くことに生かす学習用語を16個提示し、手引きを用いて内容と方法の共通理解を図った。また、他者の意見を聞く場を意図的に設け、学習用語を生かして聞くことで、内容を聞き分けて整理したり、質問や反論など聞き返す活動を行って自分の考えを広げたりする機会につなげた。

イ 授業の実際

単元名 話し合って考えを広げようーパネルディスカッションをするー

(7) 指導目標

自分の考えと比較したり、発言の妥当性を考えたりしながら聞くことを通して、自分の考えを広げる力を育てる。

(イ) 学習・指導過程の一部（全5時間）

	主な学習活動	指導上の留意点
第2時	1 自己目標を立てる。 2 学習用語の確認を行う。 3 個人で考えた根拠を発表し、検討する。(グループ) 4 プレ発表会を行う。(全体) 5 自己目標の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことのためあと前時の反省を基に、自己目標を立てさせる。 ・聞くことに生かす学習用語を提示し、確認する。 ・学習用語を生かしながら意見を聞き、意見に対する自分の考えを提示させる。 ・それぞれのグループの根拠を発表させ、それを聞いて気付いたことや、その根拠に対しての自分の考えをワークシートにまとめさせる。 ・聞くことのチェックリストで、本時の取り組みを確認させる。 ・自己目標に対しての成果や課題をまとめさせる。
第3時	1 自己目標を立てる。 2 学習用語の確認を行う。 3 パネルディスカッションを行う。(全体) 4 討論を振り返り、考えの広がりを確認する。 5 自己目標の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことのためあと前時の反省を基に、自己目標を立てさせる。 ・聞くことに生かす学習用語を提示し、確認する。 [テーマ：この場面『枕草子』第101段「にくきもの」の一部に合う挿絵はどれだろう。(挿絵を3枚提示)] ・学習用語を生かしながら話を聞き、話の要点やそれに対する自分の考えを整理させる。 ・討論全体を振り返り、自分の考えの変化を捉えさせる。 ・聞くことのチェックリストで、本時の取り組みを確認させる。 ・自己目標に対しての成果や課題をまとめさせる。

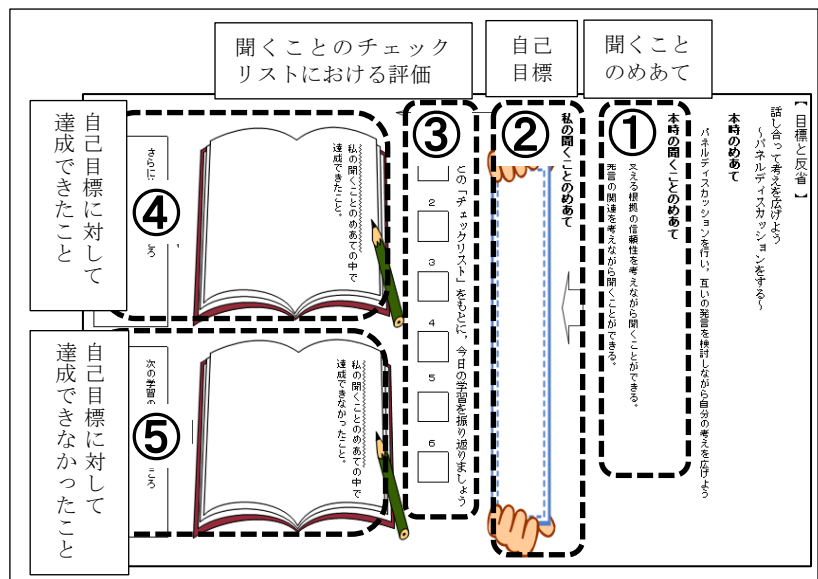
自己目標の設定と振り返り。(毎時間実施)
 ・学習用語の提示。(毎時間実施)
 ・学習用語を生かして話を聞き、自分の考えを整理する。

(ウ) 【検証の視点Ⅰ】について

a 具体的な手立て

(a) 自己目標の設定

自己目標を立てる際には、学習内容に応じた本時の聞くことのためあてを提示し(資料1の①)、聞くことに焦点を当てて目標を立てることに意識を向けさせた(資料1の②)。また、前時に整理した自己目標に対して、達成できたこと(資料1の④)と、達成できなかったこと(資料1の⑤)の内容に目を向けさせ、できなかった課題を解決するための目標や、成果を更に伸ばすための目標を設定するよう助言した。ま



資料1 自己目標とその振り返りシート

た、自己目標が聞くことに焦点を当てて立てられているのか、前時に整理した成果や課題を踏まえた目標となっているのかを毎時間チェックし、次時の自己目標が適切に立てられるよう付箋紙で助言を行った。

(b) 振り返り

学習の振り返りは、まず、聞くことのチェックリストを行わせた。聞くことのチェックリストは、学習内容に沿って、それぞれが実践した聞き方を5段階で評価するものであり、聞くことに焦点を当てて学習を振り返らせることをねらいとしている(資料2)。チェックリストでの評価(資料2の⑥)は、自己目標を立てたワークシートに転記させ(前頁資料1の③)、チェックリストとの関連を図らせながら、自己目標に対して達成できたことと(前頁資料1の④)、達成できなかったこと(前頁資料1の⑤)を整理させた。教師は、聞くことに焦点を当てた振り返りを行っているのか、自己目標に対しての振り返りとなっているのかを毎時間チェックし、成果と課題を適切に整理できるよう、付箋紙で助言を行った。

【聞くことのチェックリスト】(自己評価)

話し合って考えを高めよう。ペアディスカッションをする。◎

1. 相手のめあては達成できましたか。

5	4	3	2	1
相手のめあてを自分の考えで整理した	相手のめあてを自分の考えで整理したが、自分の考えを整理しなかった	相手のめあてを自分の考えで整理したが、自分の考えを整理しなかった	相手のめあてを自分の考えで整理したが、自分の考えを整理しなかった	相手のめあてを自分の考えで整理しなかった
2. 私のめあても達成して、話を聞くことができましたか。

5	4	3	2	1
相手に質問、集中して話を聞いた	相手に質問、集中して話を聞いた	相手に質問、集中して話を聞いた	相手に質問、集中して話を聞いた	相手に質問、集中して話を聞いた
3. ペアディスカッションで相手の考えを聞き取り、要点を整理することができましたか。

5	4	3	2	1
すべて整理した	3つ以上整理した	2つ以上整理した	1つ以上整理した	整理しなかった
4. ペアディスカッションで、自分の考えを相手の意見と比較し、検討することができましたか。

5	4	3	2	1
相手の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を整理した	相手の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を整理した	相手の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を整理した	相手の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を整理した	相手の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を整理しなかった
5. 学習内容を整理して、聞くことに役立つことがありましたか。

5	4	3	2	1
聞く聞き方を学習し、自分の考えを整理した	聞く聞き方を学習し、自分の考えを整理した	聞く聞き方を学習し、自分の考えを整理した	聞く聞き方を学習し、自分の考えを整理した	聞く聞き方を学習し、自分の考えを整理しなかった
6. ペアディスカッションにおいて、話し手の言葉を聞きながら聞くことができましたか。

5	4	3	2	1
相手の話を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の話を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の話を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の話を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の話を聞きながら、自分の考えを整理しなかった
6. ペアディスカッションにおいて相手の話を聞きとる時、相手の意見のどこに注目して聞きましたか。

5	4	3	2	1
相手の意見を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の意見を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の意見を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の意見を聞きながら、自分の考えを整理した	相手の意見を聞きながら、自分の考えを整理しなかった

資料2 聞くことのチェックリスト

b 授業の考察

(a) 手立ての有効性

聞くことのめあての提示や、前時の振り返りを基に自己目標を設定させたことは、聞くことへの意識を高めるとともに、自分の課題を明確にさせ、どのような聞く姿勢や力が自分に必要なかを明らかにさせることにつながった。また、振り返りにおいて、聞くことのチェックリストとの関連を図ったことは、自分の聞く力を客観的に捉えさせ、どんなことを聞くために、どのような聞き方をすればよいのか、聞く目的と方法とを結び付ける視点を身に付けさせた。

(b) 学級全体の変容

聞くことに焦点を当てて自己目標を立てられた生徒は、第3時において81%(25名)、前時の反省を基に自己目標を立てられた生徒は74%(23名)見られた(表3)。これは、生徒自身が聞くことに意識を傾けるとともに、自己目標に対して達成できたことと達成できなかったことを自覚し、自分の課題を明確にできたことを表している。実際、自己目標の振り返りに記述されている内容と実際の取り組みとの一致が、ワークシート等で確認できた生徒は第3時で74%(23名)見られた。

図1は、検証授業①の1時間目と検証授業②の3時間目で、相手の話を聞くときに留意した点について記述された内容(資料2の⑦)を類型化したものである。検証授業①では、聞く態度や相手の発言

表3 自己目標と聞くこととの関連

	「聞くこと」に焦点を当てて自己目標を立てている	前時の反省を基に自己目標を立てている	自己目標に対しての振り返りを行っている	
			振り返りの内容が取り組みと一致している	振り返りの内容が取り組みと一致していない
第1時	90%	90%	97%	84%
第2時	87%	90%	94%	87%
第3時	81%	74%	81%	74%

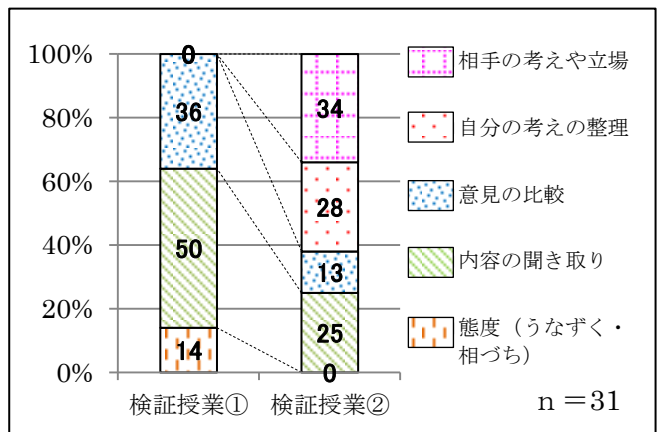
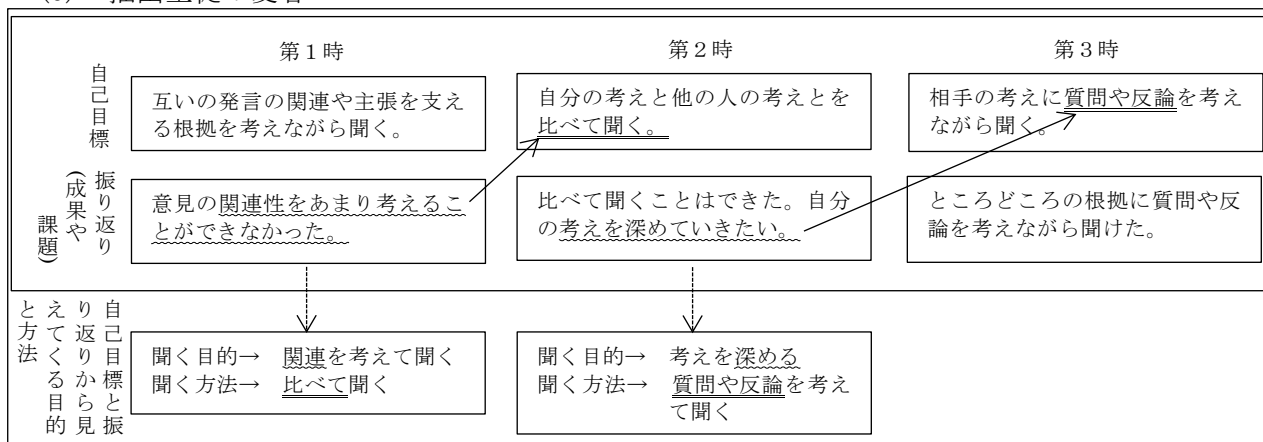


図1 記述欄の内容

内容の聞き取りに重点を置く聞き方が半数以上を占めていることが分かる。しかし、検証授業②では、自分の考えを再度整理したり、相手の考えや立場を理解したりしながら聞くという聞き方を提示する生徒が出てきた。ここからは、何を目的として聞くべきなのか、聞く目的に目を向けていることが分かり、聞くことへの意識の高まりをうかがうことができる。

(c) 抽出生徒の変容



資料3 生徒Tの自己目標と振り返り

資料3は、生徒Tが検証授業②の3時間において立てた自己目標とその振り返りの一部である。生徒Tは、実力テストや事前調査時の調査の結果が中位群に属する生徒であり、検証授業①では、聞くことを態度面やインタビューの進行面で捉えてしまい、聞くことに焦点を当てて自己目標や振り返りを行うことができていなかった。しかし、検証授業②では、聞くことに焦点を当てて、具体的な自己目標を立てられていることが分かる。また、振り返りを基に次時の課題を設定し、その課題を解決するための方法を提示していることが分かる。これは、1時間の取り組みを客観的に振り返り、自己目標のどこを達成し、どこが達成できなかったのかを適切に判断できていること、また、本時の課題から、次時はどんな目的をもってどのように聞いていくのか、聞く目的と方法を結び付けて目標設定が行えていることを示している。検証授業②においてこのような結果が見られたことは、自己目標の設定や振り返りが、聞くことへの焦点化を図り、より良く聞いていこうとする姿勢の高まりを生んだからだと考える。それが、第3時において、自分の考えを深めるためには質問や反論を考えながら聞くという、聞き返すことの必要性を実感することにつながったと考えられる。

(エ) 【検証の視点Ⅱ】について

a 具体的な手立て

(a) 学習用語の提示

学習用語は、それぞれの言葉の意味と具体的な使い方を示した一覧表にして配布し(54ページ表2)、それを用いて学習用語の内容と方法の確認を行った。また、必要な情報の聞き取りに生かすことができるよう、それぞれの学習用語をさらに詳しく説明した手引きを配布し、学習用語の使い方を知るための資料の一つとして活用させた。しかし、学習用語の一覧表とその手引きだけでは、具体的にどのような言葉に着目して聞けばよいのか、学習用語と発言との関係性を可視化できていなかったため、授業において、その関係性を可視化できる資料を掲示して確認させた(図2)。

(b) 聞く場の設定

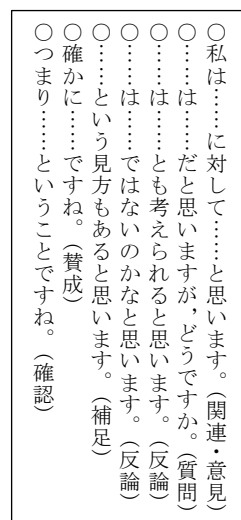


図2 学習用語を使った例

学習用語を生かして聞く場を設けるために、パネルディスカッションやグループディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、複数の意見を聞き分けて整理したり、自分の考えや他の情報と照らし合わせながら聞いて質問や反論を行ったりして、自分の考えを広げることを目的とした。また、グループディスカッションでは、根拠を踏まえて意見を述べる場や、相手の意見を聞いて自分がどのように考えを整理したのか、自分の考えを述べる場を設けた。その場において互いの考えを聞くことで、相手は正しいことを言っているのか、共通点や相違点はあるのかなどを検討し、話の妥当性を検討したり、意見の関連を捉えたりすることを目的とした。

(c) 自分の考えを整理する機会の設定

主体的に聞く力を高めるためには、聞き分けた意見と自分の考えやもっている他の情報とを照らし合わせ、自分がその意見をどう受け止めるのかを明らかにする必要がある。そこで、賛成・反対・質問・反論などの学習用語の確認を再度行った。その上で、ワークシートに聞き取った意見の要点と、それに対して自分はどうか考えるのか、相手の意見に対する自分の考えをまとめさせた。また、パネルディスカッション後は、最終的に自分がどのような考えをもつようになったのかを、自分の考えに影響を与えた意見を明記させながらまとめさせた。






b 授業の考察

(a) 手立ての有効性

学習用語を生かしながら相手の話を聞くことは、相手の話のどこに着目すべきなのか、聞き取りのポイントを生徒に与えることにつながった。また、聞く場を意図的に設けたことは、相手はどこに関連したことを言おうとしているのか、どの点についての質問や反論なのか、その質問や反論で何を聞こうとしているのかなどを考えることにつながり、学習用語との関連をより意識して聞く機会を生んだ。それが、選択して聞く、関連を捉えて聞く、比較して聞くなどの具体的な聞き方の習得につながり、分析的に聞く力を高めた。そして、分析的に聞いたことが、「こんなことを言いたいのではないか」「本当にそうなのか」など、話の真意や信頼性を自分の考えや他の情報と比べながら具体的に検討する機会を生み、パネルディスカッションにおいて、質問や反論などの聞き返す活動を繰り返すことで、新たな考えや異なる視点からの考えをもつことができた。

(b) 学級全体の変容

分析的に聞いている状況は、第2時のプレ発表会と第3時のパネルディスカッションにおいて、他者の意見や質問・反論に対する答えなどを聞いた後に、ワークシートにまとめさせた自分の考えで検証した。次のAからDの4点から自分の考えを整理し記述しているものを、分析的に聞くことができていると判断した。

	A 根拠に対して、疑問に思う点や異なる考えを提示して聞いている。
	B 検討する点に対し、賛成や反対の考えを示して聞いている。
	C 妥当性を検討するために、質問や反論する点を明確に示して聞いている。
	D 他の情報と比べて聞いている。
	E 分析的な聞き方ができていない。

その結果、分析的に聞くことができた生徒は84% (26名) に上り、中でもBの聞き方のように、賛成や反対の考えを示して内容を検討している生徒が41% (13名) を占めた(次頁図3)。これは、複数の意見を照らし合わせながら聞くことを通して、共通点や相違点を整理したり、補足する点を明らかにしたりして検討していることを表している。また、AやCの聞き方のように、異なる考えを提示したり、質問や反論などを考えることで、妥当性の検討を行ったりする聞き方を提示している生徒も38% (12名) を占めており、学習用語が、選択して聞く、関連を考えて聞く、

比較して聞く、立場を考慮して聞くなどの具体的な聞き方を提示し、内容の正否や妥当性を判断しながら聞き取るといった、分析的に聞く力を高めたことがうかがえる。

図4は、パネルディスカッションにおいて複数の意見を主体的に聞くことで、どのように自分の考えを広げることができたのかを整理したものである。複数の意見を、自分の考えや他の情報などと比べながら聞き、自分の考えを見直すことで、新たな考えや別の視点からの考えを提示しているものを、主体的に聞くことができていると捉えた。

その結果、新たな見方や考え、別の視点からの見方や考えを提示していた生徒は59%（18名）に上った。その中には、「全体ではなく、細かいところまで着目するようになった」などのように、ものの見方や考え方そのものについての考えを提示している生徒も13%（4名）見られた。これは、挿絵を色々な視点や状況設定で見ようとする姿勢、また、討論で得た見方や考えを実生活に結び付けて捉えようとする姿勢の高まりを指していると考えられる。つまり、聞き取った事柄を自分の考えや体験などと比較しながら理解していることを示している。それが、質問や反論など聞き返す活動を行ったり、その質疑応答を別の立場で聞き取ったりして、自分の考えを広げるといった聞き方につながったと考えられる。主体的に聞く姿勢をここからうかがうことができる。

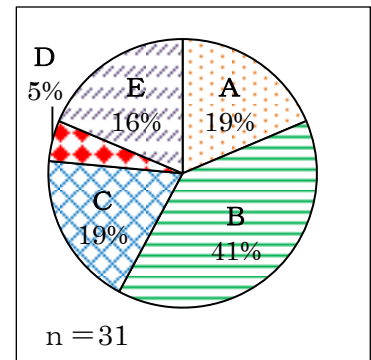


図3 分析的に聞いている状況

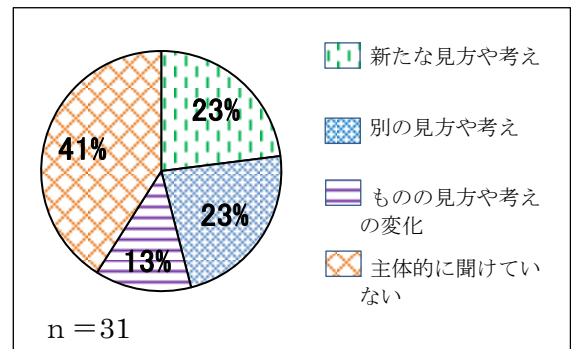
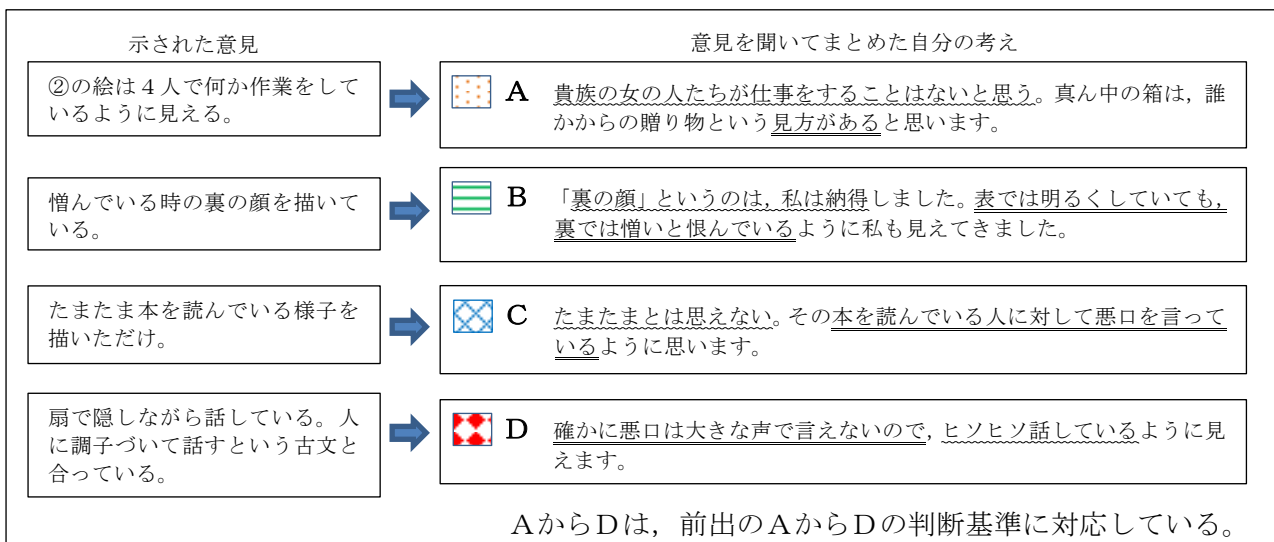


図4 主体的に聞くことで得た考えの広がり

(c) 抽出生徒の変容



資料4 生徒Tの分析的な聞き方と主体的な聞き方

資料4は、第2時のプレ発表会と第3時のパネルディスカッションにおいて、他者の意見や、質問・反論に対する答えなどを聞いた後にまとめさせた自分の考えの一部である。波線の部分からは、相手の意見のどこについての質問や反論、意見なのか明確に示されており、相手の話の要点を捉え、何を言いたのかを的確に聞いていることが分かる。つまり、どのようにして相手の意見を聞き、検討していくのか、分析的な聞き方を実践していると考えられる。また、二重線の部分では、聞いたことについての自分の考えが提示されており、相手の話を、自分の考えや体験、

他の意見などと照らし合わせて聞こうとする姿勢をうかがうことができる。ここからは、自分の考えを広げるための主体的な聞き方に迫れていることが分かる。実際、生徒Tは第3時のパネルディスカッションにおいて前頁資料4のDに示した考えを再検討し、広がった自分の考えをフロアとして発表した。つまり、学習用語を生かして聞くことは、相手の意見のどこに着目して聞くのか、どのように検討していくのか、聞き分けのポイントや検討していくための方法を習得することにつながり、自分の考えを広げるといって主体的に聞く力を高めたと考えられる。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 自己目標の設定とその振り返りを中心とした自己評価について

自己目標の設定は、相手の発言の中で自分は何を聞くべきなのか、また、それをどのようにして聞くべきなのかを明らかにすることにつながった。また、自己目標に対する振り返りは、自分の聞くことの課題を明確にし、次時の自己目標を適切に行うことにつながった。そして、これらは聞く目的と方法を結び付ける聞き方に目を向けさせ、聞くことへの意識を高めた。

イ 分析的に聞く力と主体的に聞く力を高めるための学習用語について

生徒に、聞くことに学習用語を生かすという意識をもたせることによって、生徒は聞き取るポイントを明らかにすることができた。それが、具体的な聞き方の習得につながり、関連を考えたり比較したりして聞き、妥当性を検討するという分析的に聞く力や、質問や反論をして聞き返し自分の考えを広げるといって主体的に聞く力を高めた。

(2) 今後の課題

ア 系統立てた3年間の指導

主体的に聞く力を高めるためには、中学校3年間を見通した単元の構成が必要と考える。帯単元や特設の単元などを設け、聞くことの必然性をもたせた場をより充実させていきたい。

イ 評価活動の工夫

本研究では自己評価に焦点を当てたが、相互評価を併せて評価活動に位置付けるなど、より客観的に自己の課題を見つめさせるような評価方法の改善を図っていきたい。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 国語編』 平成20年 東洋館出版社 p. 6
- (2) 野地 潤家監修 『朝倉国語教育講座 3 話し言葉の教育』 2004年 朝倉書店 p. 111
- (3) 宗我部 義則 『国語科授業改革双書 28 聞く力を鍛える授業』 1998年 明治図書 p. 20
- (4) 水戸部 修治 「学習指導要領の“学習用語”一覧」『教育科学国語教育“つけたい力”が育つ学習用語＝厳選51』 2015年 明治図書 p. 6

《参考文献》

- ・野地 潤也監修 『朝倉国語教育講座 5 授業と学力評価』 2004年 朝倉書店
- ・植西 浩一 『国語科授業改革双書 14 国語科自己評価法の開発』 1997年 明治図書

《参考URL》

- ・佐賀県教育センター 『平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書』
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H27_Webreport_center/index.html (平成27年7月)
- ・国立教育政策研究所 『「評価規準の作成、評価方法との工夫改善のための参考資料」の活用方法について』
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html> (平成23年)